

## シンガポール発日本クルーズ乗船記(7)

### 神戸港に寄港

2023-8-10 池田良穂

深夜に基隆を出港した「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」は、神戸港を目指して2日間の終日航海をしました。航海速力は約20ノットで、同船の航海速力の22ノットよりは若干遅い速度でした。

終日航海日の第1日目の朝は宮古島の北を走っており、夕方には沖縄本島の南端を東に通過して東シナ海から太平洋にでました。第2日目の朝には奄美大島の北側の水域を北上していましたが、南からのうねりが次第に高くなり、船も少しだけ揺れていました。

この日の午前中にあった船長コーナーというイベントで、船長に質問してみたところ、波は南からの35ノットの速さで、波高が3~4mで、斜め後方から受けているとの回答でした。この速さから計算してみると、うねりの周期は11.5秒となり、通過した台風の影響だと分かりました。

船長コーナーでの質疑応答で、こんなことが分かりました。

- ・旅客数は約4700名で、アメリカ人が最も多く、シンガポール人、インド人、日本人も乗船している。2人部屋の消席率では約110%となり、満室状態のようです。
- ・乗組員はフィリピン船員が最も多く、続いてインドネシア、中国、インドの順とのこと。ちなみに船長は中国人、機関長はクロアチア人、ホテルマネジャーはオーストラリア人、クルーズディレクターは中国人の女性でした。
- ・最近では燃料油の価格が高騰しており、運航コストの中で一番多いのが燃料費で、続いて食材費、人件費の順とのことでした。



キャプテンコーナーというイベントに登壇した士官たち。左の女性がクルーズディレクター、前で挨拶しているのが船長。

14時半から各階のエレベータホールでパスポートの返却がありました。最近ではパスポート情報が電子化されて、パスポートに出入国のスタンプが押されることはほとんどなくなりましたが、返却されたパスポートには、途中寄港のベトナムと中華民国(台湾)のスタンプがすでに押されていました。乗客 4700 名分と乗組員の分のスタンプを押したのですから、大変な長時間作業だったと思いました。

午後には九州の南端を通過して四国沖を北東に航海しており、横からの波となり横揺れが中心となり、波高もだいぶ小さくなってきて揺れも収まってきました。

航海 11 日目の朝 6 時に神戸港に入港、7 時少し前に第 4 突堤のポートターミナルに到着しました。着岸後、順次上陸してポートターミナルの中で入国審査を対面で受けました。筆者の部屋には、グループ 5 で 9 時 15 分から 9 時 45 分の間に下船して入国審査を受けるよとの指示がありました。最後のグループ 7 は 10 時 45 分までの下船要請であり、全員の審査が終わるまで船には戻れないとのことでした。

しかし、この後が悲惨な状況に。1 時間たってもグループ 2 以降の番号が呼ばれません。11 時半をまわってようやくグループ 5 が呼ばれましたが、船内で並ばされ、ターミナルでも並ばされ、ターミナルの外に出られたのは 12 時半過ぎでした。到着してから 5 時間以上たっていました。これまでの長いクルーズの体験でも最悪の CIQ 所要時間でした。ブースは 24 ありましたが、1 人に 2 分としても 4700 人の入国審査に 6.5 時間近くかかる計算ですから審査方法自体を改善しないとはじまりません。クルーズ会社にはパスポート情報、顔写真を含めて各乗客の電子情報があり、それに基づいた乗船管理がされているので、それを共有するようなシステムが必要なような気がしました。寄港地での一時下船にもかかわらず、税関で手荷物を開けて調べられている人もおり、これも意外な感じがしました。

船は 1 時間ほど遅れて 19 時過ぎに出港しました。夕食の後のシアターでのショーの司会に現れたクルーズディレクターが冒頭に、「CIQ が長くて、日本がいやになったね」、「両替が長蛇の列で、日本がいやになったね」と落とした後、「でも町で食べたラーメンが美味しくて、やっぱり日本が好きになったね」と言うと会場からは「そう!!」といった反応。ラストインプレッションをあげるテクニックがでていた一瞬でした。ターミナルでの神戸市の関係者のおもてなしや、ポートライナーの切符購入のサポートなどが CIQ での悪い印象を鎮めてくれていましたし、町での体験を通じて多くの乗客がそう思ってもらったら嬉しいと思いました。40 年前にマイアミで米クルーズ会社の首脳から聞いた「リピーターを増やすためにはラストインプレッションが一番大事!!」という言葉が蘇りました。



台風が日本を通過した後の神戸港は空気が澄んでいてとても綺麗でした。



着岸時のサポートについたタグボート「ろっこう丸」です。「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」はバウスラスターとポッド推進器を駆使して自力で着岸したので、万一のための監視・支援が役割です。



早朝の神戸港内には大型船の姿は数えるほどしかいませんでしたが、着岸支援に向かうタグボートが一行縦隊で港口を目指しているのが、客室のベランダから見えました。朝の大型船入港ラッシュに備えるためなのでしょう。